

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム きれんじゃく A棟	評価実施年月日	H20年1月10日
評価実施構成員氏名	福田 後藤 松山 佐藤 星	松原 坂本 菅野 池田 中塩	村中
記録者氏名	後藤	記録年月日	H20年1月17日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域の中で、その人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、開設当初より運営理念、ケア理念を職員で作り上げ今も大事に受け継がれている。</p>		<p>今まで同様に理念の大切さを職員にはもちろんのこと、地域の方にも伝えグループホームを理解してもらえるように努める。</p>
<p>2 理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員のオリエンテーション・日々の申し送り・定例ミーティング等で理念の大切さを具体的に伝え、理念に添ったケアができる様に努めている。</p>		<p>理念の内容を具体的に説明し、職員が理念について大事なこととして捉えてもらえるように日々努めている。</p>
<p>3 家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域の中で暮し続けることを大切にしたい理念を、家族・地域の人々・運営推進会議構成メンバー・ボランティア・研修生(実習生)等に理解してもらえるように伝えている。</p>		<p>地域に根ざしたグループホームづくりを理解してもらえるように、今までどうり取り組んでいく。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩・近隣のスーパーへの買い物・受診等に行った際、知人・地域の方が声をかけてくださったり、地域のボランティアの方が来てくださったりと日常的な付き合いができる。</p>		
<p>5 地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>敬老会の参加・町内会のお祭りの参加・年間を通し外出レク等で地域の活動に参加し、交流の場を設けている。</p>	○	<p>町内会の方と外出レクへ出掛けたり、食事会を開催して、もっと交流の場を広げていきたい。</p>
<p>6 事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議等で、地域の高齢者等の暮らしに役立つことはないか話し合っている。</p>	○	<p>ふれ合いサロン事業を、町内会でどのようにかかわっていくのか、今後の課題であることを話し合いの中で聞かれた認知症の方への関わり方について勉強会・見学会の受け入れも可能であることを町内会の役員の方に伝えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の方の状況を見ながら改善を図れるように取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>自己評価をすることで、できていることできていないことが明確になる。外部評価をしていただくことで、客観的に見えることもあって、今後のケアに活かされている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議で、グループホームのサービスの向上・報告・話し合いを行い、理解してもらえるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>グループホームを理解してもらえる様に、市町村の担当者や地域包括支援センターの協力を得て、今後のサービス向上に活かしていける様に努める。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>集団指導への参加、その都度何かあれば相談して連携している。</p>	<p>○</p> <p>市の担当者に、運営推進会議についての意見を求め、サービスの質の向上に取り組んでいける様に努める。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>外部研修等参加し、理解を深めている。(現在利用している人はいない)</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止関連法というものが有ること、内部研修・申し送り・ミーティング等で内容を解りやすく説明して、理解をもって虐待のないケアに努めている。細心の注意を払い防止に努めている</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>必ず契約時の説明、解約時についても同様時間をかけて、不安が生じないように説明している。</p>	<p>○</p> <p>特に大事なことなので、入所の際に十分時間をとって行なっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日々利用者の状態を観察して、訴えがなくても困ったことがないか聞くように努めている。管理者の所に相談、話に来ることも日々見られる。その中から運営に反映させていることもある。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>ご家族の来訪時に生活の様子、健康状態を伝えている。又、3ヶ月に一度の近況報告書や、行事参加の写真を掲載したきれんじやく便りを毎月発行している。金銭等についても同様に送付している。</p>	○	<p>面会に来れないご家族には写真も一緒に送っている。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情箱を設置したり、ご家族にも打診してみたり不満が生じないように努めている。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>不定期では有るが、職員一人一人面談を行い職員の意見を参考にして反映させている。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者・家族の状況の変化に対応出来る様に勤務調整を行っている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	○	<p>自主研修を行なうことで学ぶ事を身につけ、自信と働く意欲につなげられるように今年も行ないたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	○	<p>グループホームに求められることが膨大になりつつ有る現状の中、出来るだけストレスを軽減出来る様に支援する必要がある。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>本人の真意を受け止められるように努めている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>入所以前に面談の時間を多く持ち、家族が苦慮していることを理解できるように努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームの対象者でなければ他のサービスを紹介している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所の前に家族と見学をしてもらったり、場合によっては日中グループホームに遊びにきてもらい、職員や入居者と触れ合う事で、雰囲気馴染んでもらえるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごし喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は入居者の喜びを自分の事のように喜び、悲しい時は一緒に悲しみ、その方のその時の気持ちを受け止めている。一人の人間として尊敬のきもちを持って、支援させて頂いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の不安、困っていることを職員と一緒に考えながら、本人を支えていく関係を築けるように努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の関係に支障があっても、関係を理解し円滑にすすむように支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が大事にしてきたことは、関係が途切れないように支援に努めている。情報の収集をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	生活している中で支えあっている場面を目の当たりにする。入居者同士のアイコンタクト、握手をしたり、喧嘩になりそうなところに仲裁に入ったりと、支えあう場面が生活の中から見られる。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去してからも来訪される家族は、相談にきたり元気な頃の故人の話をされたりと、ときどき顔をみせてくれる。	○	手紙や電話連絡してきたりウエス等を作ってくる家族もいる。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と一緒に過ごし触れ合う事で、思いや希望を汲み取り意向の把握に努めている。入浴時間、献立、衣類等の希望。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族より情報収集して、本人のこれまでの生活環境、馴染みのくらし、馴染みの品、サービス利用の経過、既往歴等をまとめて、情報収集している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別記録や、申し送り等にて、全職員が把握できる様、努めている。日中は、日勤者が入居者の状況を把握できる勤務内容となっており、他職員が特変に気づいた際は、日勤者へ必ず報告する事となっている。日勤者から夜勤者、夜勤者から日勤者へ申し送りを行ない、情報の共有に努めている。		職員全体で把握できる様、申し送り、記録の徹底等をしっかりと行ない、チームアプローチを行う。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、必要な関係者より、介護支援専門員が情報収集を行なう。情報の共有を図る為、ケアカンファレンスを開催し、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に一回モニタリングを実施している。変化が生じた場合は、その都度、サービス担当者会議を開催して、現状に即した計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、日報、個人日報、温度版、睡眠表、排便表を記入している。又、不足の部分については、申し送りノートを作成して、職員間の情報を共有している。介護計画の見直しの際には、活かされている。		介護計画書にそった日報の記入を行なえる様努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	1階、デイサービスに遊びに行き、行事に参加したり、病院のパワーリハビリに参加して、柔軟な対応を心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	平成19年4月に運営推進会議を設置して地域との連携を図っている。職場実習(中学生)、専門学校生の研修受け入れを行っている。又、ボランティアの訪問も時々ある。消防訓練、警察の協力体制も整っている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現状ではないがその様な事があれば、協力したい。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	包括支援センター主催の研修に参加したり、地域包括支援センターの方が来訪され相談等を行ない、連携を図れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携医療機関の看護師に相談をしながら、健康支援を行なっている。病状に合った、必要な支援をしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携医療機関の医師に相談したり、外部の医療機関を受診している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携医療機関の看護師に相談できる環境が整っており、連携がとれている。病状に合った、必要な支援をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院、退院の際の情報提供を行っており、連携を図っている。環境の変化による混乱、それに伴う認知症の進行等、弊害がみられる場合は、早期に退院できる様協力を得ている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所の段階から希望を聞きながら、慎重に取り組んでいる。ターミナルケアについての同意書を家族と交わしており、状態の変化があればその都度確認を取っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	日頃から、ターミナルケアについての知識を学ぶ様に心掛けており、事業所として、出来る事出来ない事をチームで話し合いながら取り組んでいる。医師、看護師等より情報を提供してもらい、チームで共有し、今後、予測できる状態についても職員が不安のない様に行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人、家族、ケア関係者で十分に情報交換を図り、住み替えによるダメージがなく、以前の生活が維持できる様に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>高齢者の方に対して敬う気持ちを持ち、プライバシーを損ねない声かけをしている。個人情報が外部に漏れる事がない様、徹底している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々の能力にあわせた対応をしている。職員との信頼関係を築く事で、本人の意思が表出できる様に努めている</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員の都合にあわせたケアにならない様に気をつけ、その人のペースに合わせた支援をしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の馴染みの店を利用できる様に、家族に協力してもらったり、月2回の訪問理容を利用して、本人らしくおしゃれが出来る様な支援を行なっている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の方と職員と一緒に食事をして 楽しめる様な雰囲気づくりを心掛けている。利用者と一緒に、食事準備や片付けをしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	各担当職員が嗜好を調査して、楽しんでいただける様に支援している。各利用者より希望を聞いて、献立に取り入れている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄リズムの把握、声かけを行ない、失敗が続く様であればサービス担当者会議を実施し、皆で検討して原因を探り対応を考える。安易に紙オムツを使用しないケアを行なっている。羞恥心に配慮して気持ちよく排泄できる様、支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人が好きな時間帯、曜日に、ゆっくりと入浴していただく。		入浴は、本人の本心が聞きだせる大切な場である為、個々の希望に添って、気持ちが和らぐ様な支援をしていく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活リズムを把握し、本人が安心して休める場所を提供している。就寝時間、睡眠時間を把握し、日中の運動、散歩等の安眠対策を行なっている。無理な睡眠を強要することなく穏やかに過ごせる様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の生活歴を参考にして、現状で何を望み喜びになるのか、職員間で検討して支援している。パワーリハビリ、行事、レクリエーション、食事の手伝い等		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額、管理されている方が居り、スーパーへ買い物に行ったり、毎週来訪するパン屋で購入したり、自分の好きなものを購入して満足感を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホームの周辺や近所への散歩を行ったり、ドライブへ出かけたり、個人の希望に応じた対応を行なっている。外食や行事等、積極的に外出できる環境を心がけ支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者の希望を聞きながら行事を実施している。又、申し出があれば、家族だけで食事や買い物に外出している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人より希望があればいつでも電話できる。家族との関係を大切にすることで、本人にとって孤独感がなく、住みよいくらしかできる。希望があれば、職員が代筆して、手紙を送付している。	○	利用者家族へ、3ヶ月事に近況報告を、提出している。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問して頂いている。家族へは、本人の状況を必ず説明している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の資料を職員に配布して理解を深めており、身体拘束しないケアを行なっている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけないケアに取り組んでおり、実践している。帰宅の訴えがある利用者には、その都度、職員が付き添っている。夜間のみ施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者が負担に感じる事がない様、さりげなく確認したり、様子を観察して安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自分で管理できる方は管理して頂いている。一人一人の状況に応じて、細心の注意を払い危険の無い様取り組んでいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者の個々の状態を把握して、自覚を持って事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時マニュアルがあり、各対処法を職員間で周知している。		救急バック、蘇生バックを常備し、緊急時に備えて定期的に物品チェックをしている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に防火訓練を行なっている。又、災害時の連絡網があり、連絡体制が整っている。		消防署、地域の方にも協力を得られる様努める。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	利用者に変化が生じた場合は、すぐに家族に説明すると共に、リスクについて様々な状況を説明して、対応策を話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>温度版(睡眠状態、バイタル、食事、水分量、排泄)をチェックし、記録に残している。申し送りや連絡ノートで情報を共有する事で、早期発見できる様努めている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋を利用者毎にファイルしている。利用者の服薬の目的や、用量を理解している。個々の症状の変化に留意して、対応している。</p>	<p>誤薬がない様、薬の確認を複数で行なっている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>繊維質の多い食品や、乳製品を摂ったり、個々の排泄パターンを把握して、便秘にならない様に、対応している。又、体操をしたり、腹部のマッサージをしている。</p>	<p>排便表にて便秘の方を確認しており、個々の対応を行なっている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っており習慣がついている。個人の状態に応じた支援を行なっている。定期的に、歯科医師の往診をうけたりアドバイスをしてもらっている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量、水分量をチェックしている。全体量を確認しながら、個々の状況に応じて、好みの物を提示したり、習慣に応じた対応を、臨機応変に行なっている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症マニュアルがあり、各対処方法に沿った感染症予防に努めている。内部研修があり、職員間での意識の統一を図っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>利用者のおしぼり、タオル等は、毎回消毒。又、台所、調理用具等は、毎夕食後に消毒し、清潔、衛生の保持に努めている。業者より、新鮮な食材を仕入れ、管理には充分配慮している。食器洗浄機を使用している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>ハード面がむずかしいため苦慮している。グループホームとわかるようにしつらえている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>不快な音や光がないように配慮し、季節の花を飾ったり野菜を育てたり季節感を取り入れ、穏やかに安心して過ごしてもらえるように努めている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>多目的ホール、休憩室、タッフルーム、自室、他者の部屋、併設事業所等自由にいきましている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みのもの、使い慣れたものを持ってきてもらうことで、精神面の安定につながることを入所時に説明し理解してもらい協力を得ている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>汚物は新聞紙に包み臭いがこもらないように気をつけている。温度計 湿度計を設置し温度を一定に保てるように換気にも配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		<p>食事のテーブルの高さが利用者に合っていない事もあり、改善が必要である。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>今年度は、玄関前にアイスクャンドルと雪だるまを作成して好評でした。職員皆で、試行作誤しながら協力しあい作りました。来年度も、チームワークを大事により一層、心温まる作品を作りあげたいと思います。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p> <input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない </p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の数 2 / 3 くらいが <input type="radio"/> 職員の 1 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者数 2 / 3 くらいが <input type="radio"/> 利用者の 1 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族数 2 / 3 くらいが <input type="radio"/> 家族等の 1 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

理念に基づいたケアを実践しオリエンテーション、日々の申し送り、ミーティング等で具体的に職員間で共有している。

母体が医療法人なので医療との連携を図りターミナルケアまで取り組むことができる その都度状態を確認しながら医療・ご家族・グループホームが連携して最善方法を考えながら取り組んでいる

職員同士お互い信頼しながらチームケアに反映されている

ご家族がとても協力的である。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームきれんじゃく B棟	評価実施年月日	平成20年1月15日
評価実施構成員氏名	福田 菅野 伊東 池田 高畑 中塩 北山 村中 志田 是元 久田 山本		
記録者氏名	伊東	記録年月日	平成20年1月17日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、開設当初より運営理念・ケア理念を職員で作り上げ今も大事に受け継がれている。		今まで同様に理念の大切さを職員にはもちろんのこと地域の方にも伝えグループホームを理解してもらえるように努める。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員のオリエンテーション・日々の申し送り・定例ミーティング等で理念の大切さを具体的に伝え理念に添ったケアが出来るように努めている。		理念の内容を具体的に説明し職員が理念について大事なこととして捉えてもらえるように日々努めている。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の中で暮し続けることを大切にしたい理念を家族・地域の人々・運営推進会議構成メンバー・ボランティア・研修生(実習生)等に理解してもらえるように伝えている。		地域に根ざしたグループホームづくりを理解してもらえるように今までどうり取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩・近隣のスーパーへの買い物・受診等に行った際知人・地域の方が声をかけてくださったり、地域のボランティアの方が来てくださったりと日常的な付き合いができる。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	敬老会の参加・町内会のお祭りの参加・年間を通し外出レク等で地域の活動に参加し交流の場を設けている。	○	町内会の方にも行事や外出レク等に参加してもらいもっと交流の場を広げていきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議等で地域の高齢者等の暮らしに役立つことはないか話し合っている。		ふれ合いサロン事業を町内会でどのようにかかわっていくのか今後の課題であることを話し合いの中で聞かれた。認知症の方への関わり方について勉強会・見学会の受け入れも可能であることを町内会の役員の方に伝えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の方の状況を見ながら改善を図れるように取り組んでいる。</p>	<p>自己評価をすることでできていることできていないことが明確になり外部評価をしていただくことで客観的に見えることもあり今後のケアに活かしていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議でグループホームのサービスの向上・報告・話し合いを行い理解してもらえるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>グループホームを理解してもらえるように市町村担当者や地域包括支援センターの協力を得て、今後のサービス向上に活かしていけるように努める。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>集団指導への参加、その都度何かあれば相談して連携している。</p>	<p>市町村担当者には運営推進会議以外にも協力を得て今後のサービスに活かしていけるように努める。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>外部研修等に参加し理解を深めている。(現在利用者はいない)</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止関連法というものが有ること。内部研修・申し送り・ミーティング等で内容を解りやすく説明して理解をもって虐待のないケアに努めている。細心の注意を払い防止に努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>必ず契約時の説明、解約時についても同様時間をかけて不安が生じないように説明している。</p>	<p>特に大事なことなので入所の際に充分時間をとって説明している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日々利用者の状態を観察して、訴えがなくても困ったことがないか聞くように努めている。管理者の所に相談、話に来ることも日々見られる。その中から運営に反映させていることもある。</p>		
<p>家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>ご家族の来訪時に生活の様子、健康状態を伝えている。また3ヶ月に一度近況報告書や行事参加の写真を掲載したきれんじゃく便りを毎月発行している。金銭等についても同様に送付している。</p>		<p>面会にこれないご家族には写真も一緒に送っている。</p>
<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情箱を設置したりご家族にも打診してみたり不満が生じないように努めている。</p>		<p>話しやすい場になっているか再度検討してみる。</p>
<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>不定期では有るが職員一人一人面談を行い職員の意見を参考にして反映させている。</p>		
<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者・家族の状況の変化に対応出来る様に勤務調整を行っている。</p>		
<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間計画を立てて個々の能力に合わせた研修への参加。内部研修は母体の医療法人と合同で行なったり、グループホームも合同(5ユニット)で研修を行うことが有る。一昨年からユニット毎に自主研修を行い発表の場を設けている。</p>	<p>○</p> <p>自主研修を行なうことで学ぶことを身につけ、学びにより自信と働く意欲につながられるように今年も行ないたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修の機会に意見交換したり、他の管理者と情報交換することもある。現状では時間の確保が難しい。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者は不定期ではあるが職員と面談したり、相談事を聞くように努めている。運営者も管理者の相談事を親身になって聞いてくださり、ストレスが軽減できる様に配慮してくださっている。</p>	<p>○</p> <p>グループホームに求められることが膨大になりつつ現状の中出来るだけストレスを軽減出来る様に支援する必要がある。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>勤務状況を把握し仕事の内容についても理解されている。ケアについては任せてもらい信頼関係ができています。職員各自は向上心を持ち意欲を持って働ける環境にある。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所以前に本人との面談の時間を多く持ち本人のニーズ、求めていることについて一緒に考えその人を受け止める努力をしている。</p>	<p>本人の真意を受け止められるように努めている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所以前に面談の機会を多く持ち不安なく入所できるように相談内容を傾聴する。家族が苦慮していることを理解できるように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームの対象者でなければ他のサービスを紹介している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に職員とのコミュニケーションを図り家族と見学にきてもらっている。場合によってはグループホームに遊びにきてもらい場の雰囲気に馴染んでもらえるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は入居者の喜びを自分の事のように喜び、悲しい時は一緒に悲しみその方のその時の気持ちを受け止めている。一人の人間として尊敬のきもちを持って支援させて頂いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の不安、困っていることを職員と一緒に考えながら本人を支えていく関係を築いていけるように努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族関係に支障があってもグループホームで生活することで関係が円滑にすまれるように努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人・家族から情報収集し本人が大事にしてきたことは関係が途切れないように支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	生活している中で支えあっている場面を目の当たりにしている。入居者同士のアイコンタクトや手を握り合ったり、お世話をしたり、喧嘩になりそうなところに仲裁に入ったりと支えあう場面が生活の中から見られる。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去してからも来訪される家族は相談にきたり、元気な頃の故人の話をされたりと、ときどき顔をみせてくれる。		手紙や電話連絡してきたりウエス等を送ってくる家族もいる。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活暦・既往歴等の把握は勿論のこと。利用者で過ごすことで本人の求めていることをくみ取ることができる。日中の過ごし方家族宅への電話の取次ぎ・入浴・衣類・献立等本人の希望に合わせて行なっている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族によりこれまでの生活習慣、本人が大切にしている思い出、なじみの品、既往歴等サービス利用の経過等の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員は出勤して業務の前に申し送りノートに目を通すことになっている。日中は日勤者が入居者の状況を把握できるような勤務内容になっている。他の職員が特変に気づいた場合には、日勤者に必ず伝えることになっている。日勤者から夜勤者、夜勤者から日勤者に申し送って情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、必要な関係者より介護支援専門員が中心に情報収集を行なう。情報の共有を図るためケアカンファレンスを開催し介護計画を立てる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1度定期的にモニタリングを実施している。予測できる問題、心身状態に変化が生じた場合は本人、家族関係者の意見を聞いてサービス担当者会議を開催し見直しを行ないプラン作成に努めている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人日報・日報・温度板・睡眠表・排便表を毎日記録。夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者へ申し送りしている。申し送りノートも活用し介護計画の見直しに活かしている。		介護計画書に添った日報の記入を行えるように努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	母体が医療機関なのでパワーリハビリを利用したり 併用施設のデイサービスの行事に参加させてもらっている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	平成19年4月に運営推進会議を設置して地域との連携を図っている。警察の協力体制 消防訓練、中学校の職場体験、ボランティアの方にも来ていただき各機関の協力を得て支援している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現状ではないがそのようなことがあれば協力したい。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター主催の研修に参加したり地域包括支援センターの方が来訪され交流を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療連携を担当する医療機関の看護師に相談しながら日常の健康管理、適切な医療機関への受診の支援をしている。</p>		
<p>44</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>入所にあたり専門医療機関を受診してもらい診断書を書いてもらっている。必要があればそのまま定期受診してもらい医師より指導・助言をもらっている。</p>		
<p>45</p> <p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療連携を担当する医療機関の看護師に相談しながら日常の健康管理、適切な医療機関への受診の支援をしている。</p>		
<p>46</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>環境の変化による混乱、それに伴う認知症の進行等入院による弊害がみられる場合には病状にもよるが速やかに退院させてもらえるように協力を得ている。</p>		
<p>47</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入所の段階から希望をききながら慎重に取り組んでいる。実際重度化した場合においては本人、家族、担当医師、職員と繰り返し相談しながら方針をたてている。早い段階からターミナルケアについての同意書を交わし状態の変化があればその都度確認をとっている。</p>		
<p>48</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>事業所としてできることできないことをチームで話し合いながら取り組んでいる。医師・看護師等より情報を提供してもらいチームで共有して今後予測できる状態についても職員が不安のないように行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人、家族、ケア関係者間でケアカンファレンスを行い情報交換をして住替えによるダメージがなく以前の生活が維持できるように努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>常に高齢者の方を人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに対応させてもらっている。必ず言葉かけをして安心感を持ってもらえるように対応に努めている。記録時はインシヤルを使用して個人情報の取り扱いにも配慮している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が意思決定できるように個々の能力に合わせて対応している。職員との信頼関係を築くことで本人の意思が表出できるように努めている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員の都合にあわせたケアにならないように気をつけその人のペースに合わせて支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の意思を尊重している。本人の好みに合ったものを購入してきてもらったり家族と衣類化粧品を求めに出かけたりしている。理美容も家族と出かけたり訪問利用を利用したり本人の意思、状態によりおしゃれを楽しんでいる。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者が楽しく食事が摂れるように職員が雰囲気作りを心がけている。その日の状態に合わせて一緒に準備や後片付けをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者個々の嗜好に合わせ希望や体調に応じ提示している。(喫煙者は現在いない)		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄のリズムの把握、声かけを行い、失敗が続くようであればサービス担当者会議を開き検討して原因を探り対応を考える。安易に紙おむつ、紙パンツにしないように努めている。羞恥心に配慮して気持ちよく排泄ができる様に支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望している時間に入っただき1対1の対応でゆっくりと入浴ができるように支援している。		入浴中に本心を聞くことができるので、大切な時間として捉えている これからも気持ちが和らぐ入浴支援をしていく。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人の居室、多目的ホール、居間等で本人が希望する場所で休息している。個々の記録により就寝時間、睡眠時間を把握し日中の運動、散歩を奨励するなどの安眠対策を考慮し無理な睡眠を強要することなく穏やかに過ごせるように支援している。また就寝前に足浴したり温かい飲み物を用意したり眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活暦、これまでの生活を参考にしながら現状では何を望み喜びと感じてもらえるのか本人、家族、職員間で検討し対応できるように努めている。買い物や散歩などの外出、レクリエーション、パワーリハビリ等また可能な範囲で家事や作業の手伝い等それぞれが楽しく活動できる場面を見出している		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の能力に応じ家族との相談の上支援している。		スーパーでの買い物やパン屋さんが毎週火曜日に来訪しているが購入方法は個人の能力に合わせて行っている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	散歩、買い物、野外でのレクリエーション、入居者の希望に応じての外食機会等積極的に外出できる環境を心がけ支援している。		個別対応により希望に添った外出ができるように支援していきたい。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	外出レクリエーション等により可能な限り希望に添い出かける機会を設けている 家族とも個々にでかけて密なコミュニケーションを図れるように支援している		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	入居者個々の状態に合わせ、入居者の希望する家族との交流を支援している。		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	家族、知人等が気軽に訪問できるよう配慮しつつも暖かく迎え入れるよう心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定制基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	内部・外部研修により身体拘束についての理解を深め、緊急を要する以外は行わないように努めている。		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	夜間のみ施錠しているが日中は行っていない。 施錠することにより、心理的な弊害が起きることを理解した上で対応に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>常に入居者の様子が見える位置につきながら、状況に応じさりげなく声かけ等で安全に配慮している。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>保管場所・管理・数など細心の注意を払い危険のないよう職員に周知している。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>常に入居者の個々の状態を把握して、職員一人ひとり自覚を持ちながら事故のないよう取り組んでいる。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>急変時におけるマニュアルに基づき、ミーティングの際実技を通し学び再確認し実践できるよう取り組んでいる。</p>		<p>救急バック、蘇生バックを常備し緊急時に備えている。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練等実施し災害時については、職員一同熟知している。</p>		<p>消防署、地域の方にも協力が得られるように努める。</p>
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>日常的に説明をし特変時などはその都度連絡している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>個々の既往歴を把握し日常的に様子観察、状態の変化を見逃さないように努めている。申し送り・申し送りノート・個人記録 日報等情報を共有できるよう対応している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方内容を把握し、症状の変化に留意する。</p>	<p>誤薬のないように、薬の確認を複数の職員で行っている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>個々の嗜好にあったもので、食物繊維の多く含まれている食品・乳製品等を食べてもらえるように工夫している。 日常の睡眠状態・食摂量・日中の活動量にも留意し取り組んでいる。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の状態に合わせ、口腔の清潔に努めている。定期的に専門医に診てもらい、アドバイスをもらっている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士がバランスの良い食事、希望も取り入れて献立を作り、個々の食摂量・水分量を把握して無理のないよう支援している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>外部・内部研修会の参加により職員一人ひとり迅速に対応できるように努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食器洗浄機を使用。調理器具は毎日消毒し衛生管理に努めている。食材は業者より新鮮な食材を納品してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	ハード面がむずかしいため苦慮している。グループホームとわかるようにしつらえている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	不快な音や光がないように配慮し、季節の花を飾ったり野菜を育てたり季節感を取り入れている。穏やかに安心して過ごしてもらえるように努めている		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	多目的ホール・休憩室・スタッフルーム・自室・他者の部屋・併設事業所等自由にいきましている。多目的ホールでは、その月の行事にあったものでしつらえている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	馴染みのもの、使い慣れたものを持ってきてもらい精神面の安定につながることを入所時に説明し理解してもらい協力を得ている。		理解してもらうことが難しいケースもあるが、理解してもらえるように働きかけ本人が安心して過ごしやすいように努める。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	汚物は新聞紙に包み、臭いがこもらないように気をつけている。温度計・湿度計を設置し温度を一定に保てるように、換気にも配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>室内はバリアフリーで、必要なところに手すりを設置している。個々の状態を把握し、本人が主体的に行えるようにつ安全に過ごしてもらえるように配慮している。</p>	<p>食卓テーブルの高さが、利用者にあってないこともあり改善が必要である。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>個々の状態を把握し受け止める。できることをしてもらい混乱、失敗がおきないようにケアを行い主体性を持って生活できるように支援する。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>敷地内での畑づくり・花壇作り・グループホームのベランダに野菜を植えたり花を育てたり観賞用としても楽しんでいる。</p>	<p>建物の二階にグループホームがあるためなかなか自然を身近に感じる事が難しい。調べて袋でジャガイモを育ててみることにした。何度も見に来られる利用者の方。芋の成長を楽しみにしている。いろいろな楽しみ方があることを知る。今年はずっといっぱい育てて収穫祭をむかえたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 理念に基づいたケアを実践し、オリエンテーション、日々の申し送り、ミーティング等で具体的に職員間で共有している。
 母体が医療法人なので医療との連携を図り、ターミナルケアまで取り組むことができる。 その都度状態を確認しながら医療・ご家族・グループホームが連携して最善方法を考えながら取り組んでいる。
 職員同士お互い信頼することでチームケアに反映されている。
 ご家族・地域の方が共に協力的である。